

感動一点の場

『静物』
1955 年 小川原 脩 画



この作品は 22 ㍍× 22 ㍍の小さなキャンバスに描かれています。画面のほとんどを占めているのは白いカップとふたつの桃。その周りを茶色の濃淡で塗り分けてテーブルと壁を描き、落ち着いた空間を表現しています。写実的に描かれた桃とは対照的に、カップが不自然に見えるのは、横から見た形と少し上からのぞいて見た形が一つに構成されているからです。そこにはフランスの画家ポール・セザンヌの絵画様式を追求した跡がみられます。セザンヌは近代絵画の父といわれ、遠近法などの伝統的な絵画の約束事にとらわれず独自の絵画様式を探求し、ピカソやマチスにも影響を与えた画家です。1955 年頃の小川原脩はフランスの現代絵画にも刺激を受け、具象を大胆にデフォルメしたものを画面の中で自由に構成するなど常に新しい表現を試みていました。そのモチーフには北海道に生きる人や動物、風景を用いて小川原独自の作品を精力的に発表したのです。素朴な静物が描かれた小さな作品ですが、小川原が試みた新しい絵画様式でモダンな印象に仕上がっています。

文：金澤 逸子（小川原脩記念美術館 学芸スタッフ）

豆炭あんか

写真の資料は、「豆炭あんか」と呼ばれるもので、火をつけた豆炭を中に入れて使う道具です。寒い季節になると布団の中に入れて暖をとりました。豆炭 1 個で一晩中暖かさが続き、とても重宝しました。まれにあんかを入れた袋の口が開いたり布が薄くて、足に低温やけどの水ぶくれができたりすることもありました。「豆炭あんか」が家庭で使われはじめるのは、豆炭が発明された大正時代以降になります。豆炭は、大正 9（1920）年に川澄政によって発明されました。これは欧州で作られていた成形石炭を改良し、複数の石炭の粉末と消石灰・コークス・木炭などを混ぜて、豆状に成型して乾燥炉で焼成して作ったものです。倶知安町での「豆炭あんか」の普及について詳細はわかりませんが、昭和 36（1961）年発行の倶知安町史によると、町内での石炭の販売は、大正 13（1924）年に高橋収蔵が石炭屋をはじめたのが始まりとあり、「豆炭あんか」もこれ以降、町内で普及していったと思われます。昭和 50 年代になると、家庭で電気あんかや電気毛布が普及して、豆炭あんかは使われなくなりました。風土館には、豆炭あんかをはじめ、湯たんぽや炭火あんかなど、各種暖房器具も展示していますので、皆さんの思い出を教えてください。

文：今井 真司（倶知安風土館 学芸補助員）



ふるさと探訪

487 回

展覧会のお知らせ

■第 1 展示室

第 65 回麓彩会展

1958 年、小川原脩をはじめとする 8 人の発起人により創設された「麓彩会」。今年で 65 回目を迎えます。地域に根差した創作活動を展開する作家たちの近作を通じて、この地域の多彩な美術を紹介します。

会期：開催中～令和 6 年 1 月 14 日(日)

■第 2 展示室

小川原脩展「小川原脩と麓彩会」

小川原脩は麓彩会を「地方文化の苗床」として位置付け、自身の重要な作品発表の場としていました。麓彩会展出品作を中心に画業をたどる展覧会。

会期：開催中～令和 6 年 2 月 12 日（月・祝）

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

京都逍遙（12）「王城の面影を辿る」（後半）

平等院から浄瑠璃寺まで平安の世を救った寺を巡ります。

日時：11 月 18 日(土) 14 時～ 14 時 45 分

会場：映像ルーム（無料） お相手：金澤逸子（学芸スタッフ）

おとなの手しごと（22）「《徳さんと》ねんどで鳥をつくろう」

町内の画家・徳丸さんと一緒に、石粉ねんどを使って、素朴なかたちの「鳥」の彫刻をつくります。

日時：11 月 25 日(土) 14 時～ 16 時 会場：ロビー（無料）

お相手：徳丸滋（画家）、沼田絵美（学芸員）、金澤逸子（学芸スタッフ）

定員：10 名※要予約、高校生以上、親子可

■ロビー展示

第 16 回絵画コンクール「ふるさとを描こう」作品展

絵画コンクールに応募のあった子どもたちの作品、全 148 点をロビーに展示します。

日時：11 月 3 日（金・祝）～ 12 月 10 日(日)

会場：ロビー（無料）

■文化の日（11 月 3 日）は美術館・風土館無料開放日

11 月 3 日は小川原脩記念美術館・倶知安風土館の開館記念日です。終日無料開放しますので、どうぞお立ち寄りください。

【イベントも開催！】

○小川原脩記念美術館

・ふるさとを描こう絵画コンクール表彰式 10 時～

・友の会「フェルトワークショップ」 11 時～

・友の会「ポストカード・ペーパークラフト配布」 終日

○倶知安風土館

・「のぞいてみよう！スズメバチの世界（キイロスズメバチの巣の解体）」 13 時 30 分～

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館 ☎ 21-4141

観覧料：一般 500 円（400 円）

高校生 300 円（200 円）

小中学生 100 円（50 円）

倶知安風土館 ☎ 22-6631

観覧料：一般 200 円（100 円）

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は 9 時～ 17 時
入館は 16 時 30 分まで
※（ ）内は 10 名以上の団体料金
11 月の休館日 毎週火曜日、
文化の日・開館記念日（3 日）
は観覧無料

釧路市立美術館

10 月初旬、令和 5 年度の北海道公民館大会が釧路市生涯学習センター「まなぼつと幣舞」で 2 日間にわたり開催され、参加してきました。

「コロナ禍以後の北海道の地域づくり」をテーマに、これからの公民館の役割について学ばせていただきました。

会場のまなぼつと幣舞の 3 階には釧路市立美術館があり、大会参加者には団体割引が適用されるとのこと。帰りの JR の待ち時間を使い、ありがたく鑑賞してきました。

当日は「遠藤彰子展 在り過ぐす」の会期中。遠藤さんは神秘的な表現で知られる洋画家で、NHK の日曜美術館でも取り上げられたことのある方です。大作が多いことでも有名で、今回も 500 号以上（最も大きな作品だと 3.3 ㍍× 7.4 ㍍超！）の大作シリーズが何作も並び、まさに圧巻の展示内容。充実した気持ちで帰路につくことができました。

館長 福原 秀和